

RC床版の下面の現時点の損傷情報(ひび割れなど)を入力することでAIが余寿命を評価  
【新たな仕事の仕方】

No	7	分野	橋梁	プロセス	維持管理
目的	事象の認識			撮影・可視化対象事項	形状、位置
対象物(部材等)	コンクリート構造物			活用効果	品質

現在の仕事の仕方

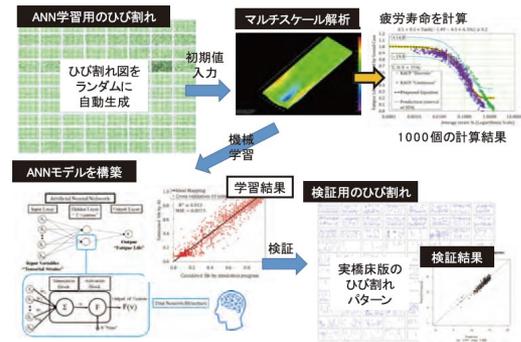
- 点検結果をもとに健全性を評価
  - 近接目視を基本とし、橋梁の状態把握を行う
  - 目視の結果から部位、部材ごとに損傷程度を評価(損傷結果はイラストや写真で記録)
  - 評価結果を踏まえて、橋梁全体の機能に及ぼす観点から健全性を診断する
  - 次回点検時までの対策区分(優先度)は整理されるが、余寿命は評価されない。

区分	定義
I 健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
II 予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

【画像・映像情報の活用目的】  
損傷の記録

新たな仕事の仕方

- AIによるRC床版の余寿命の評価
  - 当該AIモデルに、RC床版の下面の現時点の損傷情報(ひび割れなど)を入力することで、余寿命を評価する。
  - 損傷劣化状態(現時点)をインプットして、高度なFEM解析を行うことで、重交通荷重に対する疲労余寿命の計算を行う。



【画像・映像情報の活用目的】  
損傷の評価・余寿命の判定

撮影・可視化対象事項	【位置】事象の認識 【形状】事象の認識
撮影・可視化条件	(記載なし)
対象の属性情報	【仕様・諸元】交通荷重、学習用のひび割れ図 【計測・点検結果】損傷情報(ひび割れなど)